

ドローン散布の防除効果改善に向けた取り組み

ドローン機体性能が年々上がっており、多量散布が可能な機体も出てきている。ドローン散布による黒点病の防除効果を向上させることを目的に、多量散布を検討した。

供試品種：興津早生（9年生）

供試薬剤：ジマンダイセン水和剤

試験区：1区1樹4反復

- ・ドローン多量散布（50倍・40 L/10 a）※1
 - ・ドローン通常散布（10倍・8 L/10 a）
 - ・手散布（600倍・4 L/樹）
 - ・無処理
- ※2

※1：登録外濃度

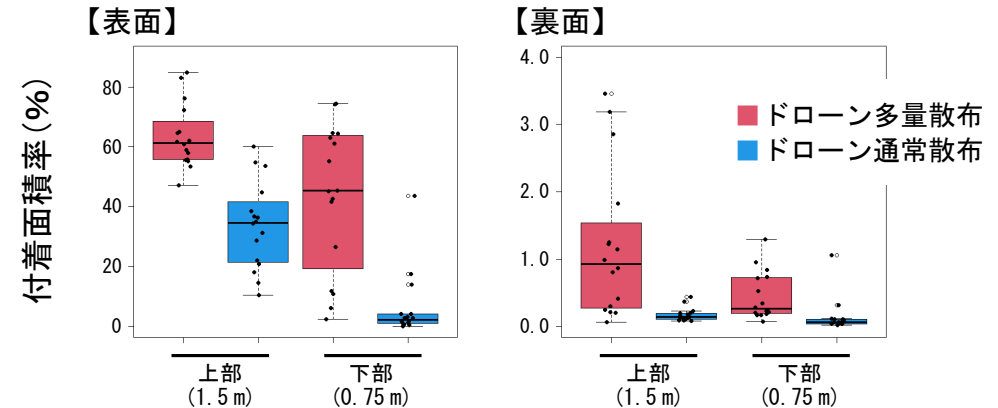
※2：ドローン散布の有効成分量は同じ

散布日：2025年6月6日、7月10日、8月5日、9月9日

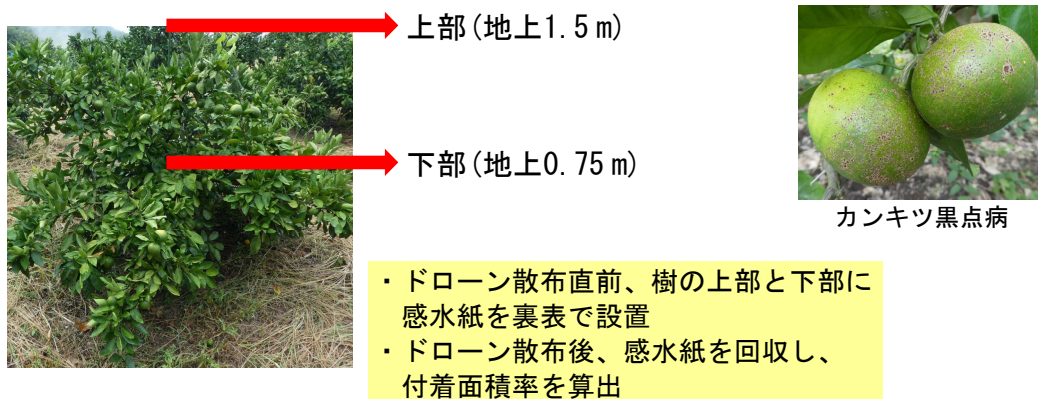
ドローン：AGRAS T25 (DJI社)

速度5 km、樹上2～3 m、幅2 mで片道散布

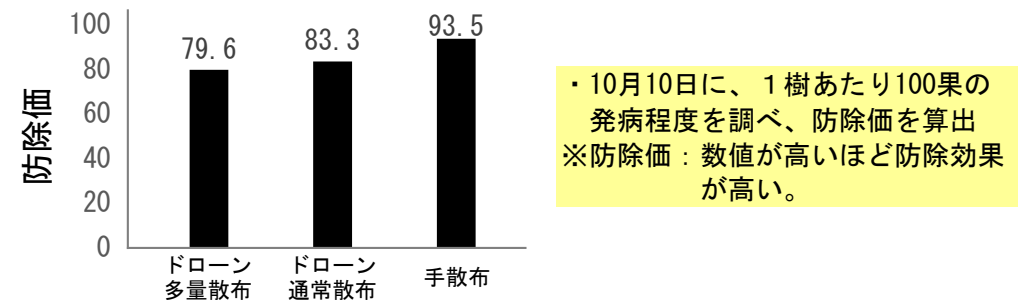
○感水紙付着面積率



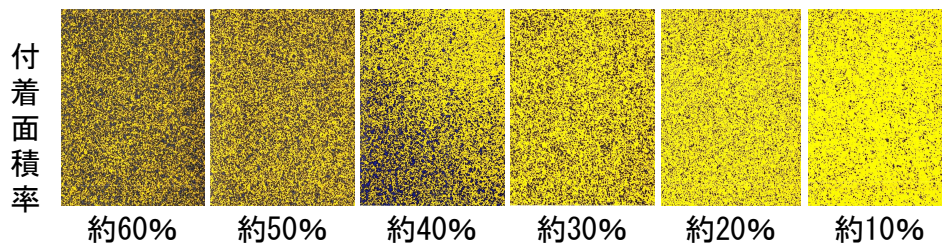
多量散布の感水紙表面上部・下部、裏面上部・下部の付着面積率は、通常散布よりも有意に高くなった。



○防除効果



○感水紙（水分が付着すると黄色から青色に変化）



ドローン多量散布と通常散布の防除価は同程度であった。
ドローン散布は、手散布と比較すると防除効果がやや劣った。

●ドローン多量散布により感水紙付着面積率が高くなったが、防除効果は向上しなかった。
⇒作業性と防除効果のバランスが良い最適散布量の検討を続ける。